



巻頭特集

大学生の将棋のプロ

女流棋士

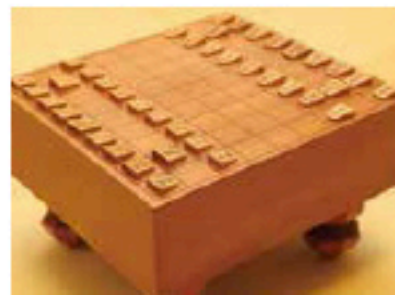
中澤 沙耶さん

Saya Nakazawa

2015年4月、

愛知県で2人目となる女流棋士が誕生した。
大学進学とともに将棋のプロとしての道を歩み始めた

江南市在住の中澤沙耶さんの
将棋との出会い、大学との両立の日々、
これからの夢を語ってもらった。



将棋の複雑なルールに 「おもしろさ」を感じた 小学生時代

沙耶さんが将棋を始めるきっかけとなったのは小学校4年生のとき。友達とよく遊びに行っていた地元の子児童館で開催されていた将棋教室に参加してみたいかと誘われ、沙耶さんはこのとき初めて将棋の駒を手にした。

81マスの盤の上で8種類、先後後手合わせて40枚の駒を指し進めていく将棋。駒の種類によって動かし方が異なるため、初心者ですぐにルールを理解し戦えるようになるのは難しい。当然、先生を相手に初めて指した

将棋に沙耶さんは完敗した。しかし、このとき沙耶さんが感じたのは「駒の動かし方がいっぱいあっておもしろい！」

そして、負けるのは当然の結果であるはずなのに、大きな悔しさを感じた。

「いつか先生に勝ちたい！」

その日から沙耶さんは将棋の面白さに引き込まれた。たまたま沙耶さんの祖父が将棋に詳しくあったこともあり、祖父に基礎を教えてもらいながら、どんどん将棋にのめり込む日々が続いていったという。そんな沙耶さんの姿を見ていた母・希美さんは、本格的に将棋を学べる教室を探し、将棋に

打ち込める環境に沙耶さんを誘った。宮市富士公民館で開催されていた将棋教室「尾張一宮将棋同好会」である。ここは大人から子どもまで在籍している将棋教室ではあるが、同じ年頃の子どもの多く、さらに2人の女の子がいたため、すんなり溶け込んで将棋を楽しむことができたという。その一方で自分よりもはるかな下の小学1年生の子に惨敗し、悔しさを募らせる場もあった。しかし持ち前の負けず嫌いポジティブな性格が相伴ってメキメキ上達。小学5年生のとき初めて出場した。小学生大会女子の部では3位という成績をあげた。賞品として盾をいただき

大変感動したものの、自分より上位の2人はなんと同じ教室で一緒に将棋を学んでいる子だったという。その現実に、彼女たちに勝たなければ優勝できないということを感じたという。それ以降沙耶さんは数々の大会に出場を重ねた。この頃から女性向けの大会も増え始めたため、小学生のみならず大人相手に対戦することもあった。大阪や東京など遠方会場で行われる大会にも母・希美さんは同行し、沙耶さんを全力で応援した。その甲斐あって沙耶さんは6年生のときには1500人の小学生が集まるというJ.T杯に東海地区代表として出場しベスト32に、子ども

から大人まで年齢関係なく出場するという女子アマ王位戦では名古屋代表の座を勝ち取った。

女流棋士との出会いで知った 「職業としての将棋」

6年生の冬、沙耶さんは新たに「東海研修会」へ通い始めた。プロを目指す人が学ぶ場である研修会は、一番下のF2クラスから上はA1クラスまであり、昇級試験によってF1→E2→A1クラスに昇級できる仕組み。C1クラス以上に入ると女流棋士になる資格を得ることができる。

これまでもただ将棋を楽しんでいた

だけの沙耶さんがプロを目指す気持ち

が芽生え始めたのはこの頃だ。研修会では現在の師匠である杉下昌隆七段をはじめ、多くの先生の指導を受けて腕を磨いた。その中に室田伊緒女流二段の姿もあった。彼女は愛知県で唯一の女流棋士。彼女の存在で初めて、女流棋士、という将棋を職業とする女性がいることを知ったという。

「自分の好きなことを職業にできるなんてこんな素晴らしいことはない！自分の力を信じてプロを目指そう！」
沙耶さんの夢は次第に固い決心へと変わっていく。中学2年のとき、第3回女子アマ王位戦全国大会で

優勝。中学3年のときは第15代アマ

チュア女王戦、栄光杯第43期女流アマ名人戦でタイトルを奪取し、女子アマ初の三冠に輝いた。

沙耶さんの功績はまだまだ続く。高校生になると女流棋士公式戦であるマイナビ女子オープンと霧島酒造杯女流王将戦に2年連続で本戦入りを果たした。これは女流2級に該当する成績となる。こうして高校2年の7月、沙耶さんは研修会C1クラスに昇級し、念願の将棋のプロである女流棋士となる資格を得ることができた。

しかし、沙耶さんはこのときプロになることを見送った。一番の理由は

大学進学を希望していたから。

「もっと視野を広げていろんなことをまだ学んでおきたいと思ったんです。将棋界だけでなく、いろんな人に出会っていい刺激を受けるために。アマチュアの人でも将棋の強い人はたくさんいますから、そんな人たちと対戦を重ねてもっと力をつけてからプロになったほうがいいのではとも思いました。」

「やりたいことを見つけたら、 自分を信じてやりぬくことが 大事！」

2015年春、名城大学都市情報学部に進学が決まったことから4月

1日付けで念願の女流棋士になった沙耶さん。大学では情報処理技術をメインに学ぶ傍ら、将棋部に所属。試合には出場できないながらも、将棋に関わりながら学生生活を満喫しているという。

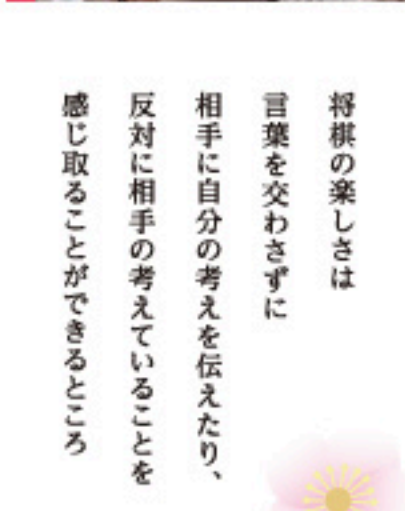
明るい笑顔で話す沙耶さん。こんなに可愛らしい彼女が相手の手の内を探りながら将棋の駒を進めているのは想像がでないほどだ。

「将棋の楽しさは言葉を交わさず相手に自分の考えを伝えたり、反対に相手の考えを感じ取ることができるところです。」と将棋の面白さを教えてくれた。

将棋界はまだまだ男性が中心な部分があり、将棋自体あまり女性には普及していないといえる。女性にはもちろん、将棋界をさらに盛り上げる役割を担うため、今後さらなる沙耶さんの活躍を期待したい。



A 女流王座戦(右が沙耶さん) 2015年7月 リコー杯女流王座戦
B 富士公民館(一番左が沙耶さん) 一宮市富士公民館での将棋教室「尾張一宮将棋同好会」にて
C 女流名人戦(右から2番目が沙耶さん) 2011年10月 第43期女流アマ名人戦
D 姉弟子指導対局(ピンクの服が沙耶さん) 室田女流二段からの初めての指導対局。沙耶さん小6



将棋の楽しさは
言葉を交わさず
相手に自分の考えを伝えたり、
反対に相手の考えを感じ取ることができるところ



右の二つは第43期女流アマ名人を獲得した時に、左は中学時代の活躍を記念して宮田中学校から贈られたもの